



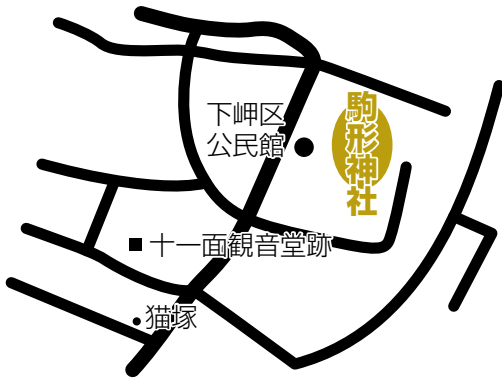
駒形拝殿（前側）と本殿（後側）の外観



▲駒形神社本殿正面



▲龍の彫刻のある中備（墓股）



御前崎市指定有形文化財 駒形神社本殿

History

キラリを再発見

律令期の白羽官牧と 関係が深い駒形神社

駒形神社の由緒は明らかではありませんが、聖武天皇時代（701年～756年）と伝えられています。白羽神社と同じく白羽官牧と関係が深い神社の一つと考えられており、白羽神社の神様と同じ「天津日高彦火火出見尊」・「豊玉毘売命」・「玉依毘売命」の三神を祭神としています。

駒形神社の神様は、99匹の神馬とともに伊豆の国から渡ってきたものの、御前崎の沖合で神馬が疲労で没してしまい、御前岩（駒形岩）となり、神様はウミガメに乗って上陸したと伝えられています。

駒形神社は、御前崎の先端に位置しており、特に海上安全、航海安全、大漁祈願に御利益があるとして、漁師や海上運搬業者などから信仰されています。本殿の構造は、一間社入母屋流造で、様式的に江戸中期から後期前半あたりの時代的傾向が顕著です。本殿は、建造物として貴重なことから市指定有形文化財に指定されています。

照会 社会教育課 ☎0537-298735

Atomic

暮らしと原子力

浜岡原子力発電所1・2号機の
廃止措置の状況をお知らせします

中部電力(株)浜岡原子力発電所1、2号機は、2009年に運転を終了しました。現在は建物などを解体し、さら地にする廃止措置が進められています。これには約30年の年月を要します。

工事は4段階で進められます。第1段階は、燃料取り出しや放射線管理区域外の設備や機器の解体工事などが実施されました。現在は、第2段階として放射線管理区域内の発電機や排気筒といった原子炉周辺設備の解体工事などが適切な放射線管理のもと、進められています。第3段階は原子炉本体を解体撤去する工事に移り、第4段階で建物を解体しさら地にする予定です。

第2段階で発生する解体物のほとんどは、放射性廃棄物として管理する必要がないものになります。低レベル放射性廃棄物も発生します。同



▲発電機解体工事の様子

社では、解体された放射性廃棄物の廃棄先が決定するまでは、建屋内で安全に保管するとしています。

廃止措置には、低レベル放射性廃棄物の適正管理や処分先の決定、クリアランス制度の理解促進など、解決すべき多くの課題があります。市ではこれらの課題を早期に解決し、廃止措置が計画どおり実施されるよう、中部電力(株)に求めています。